



「みらい公園湖南」を核とした 地域経済活性化施策の現状と課題



令和3年7月



現状と課題① 通過交通の街化



課題1: 通過交通の街化

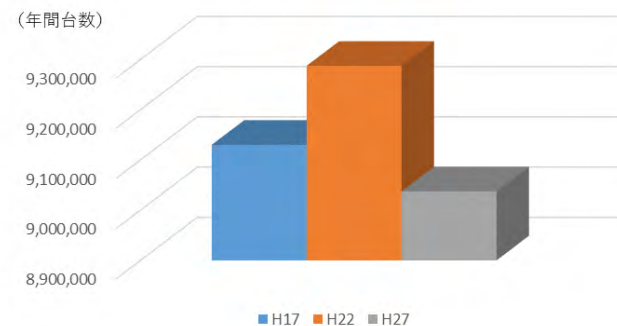
- ・国道1号バイパスや名神高速「栗東湖南IC」が新設され国土軸の要衝機能が拡大化し大量交通が往来。
しかし、来訪者が気軽に立ち寄れる沿道休憩施設が国道1号沿線にない。
- ・通過者が一元的に観光や地域の情報を収集できる施設がない。
- ・近隣市町に大型商業施設(アウトレットモール)や陶芸産地(信楽焼)が存在しているため、来訪の目的地とならず、「通過交通の街」化。

みらい
公園湖南

約900万台/年の通過交通に対して、観光客は約30万人/年にとどまっている！

幹線から遠隔にある観光名所などへアクセスできない！

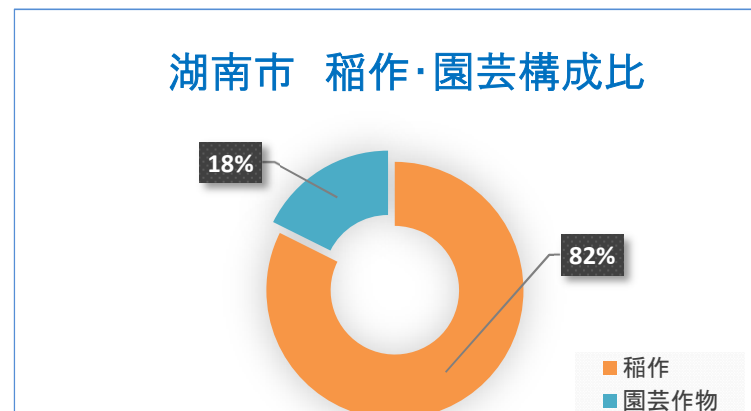
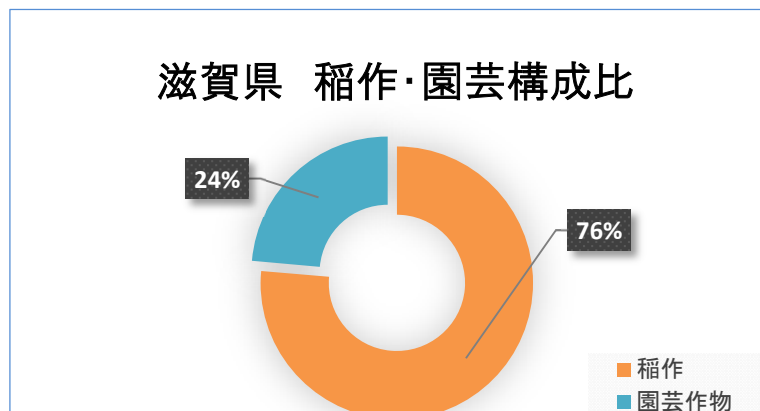
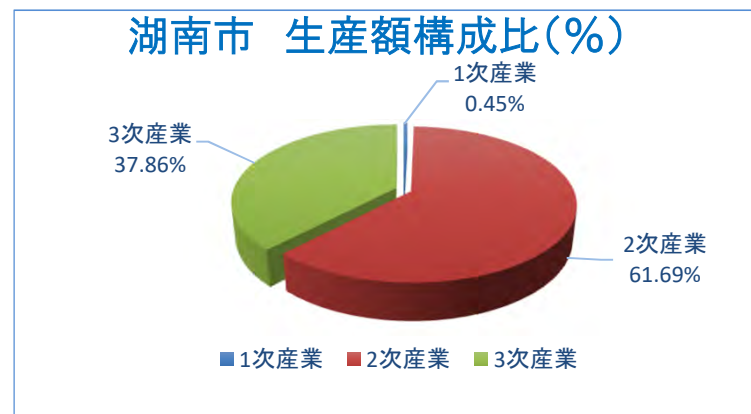
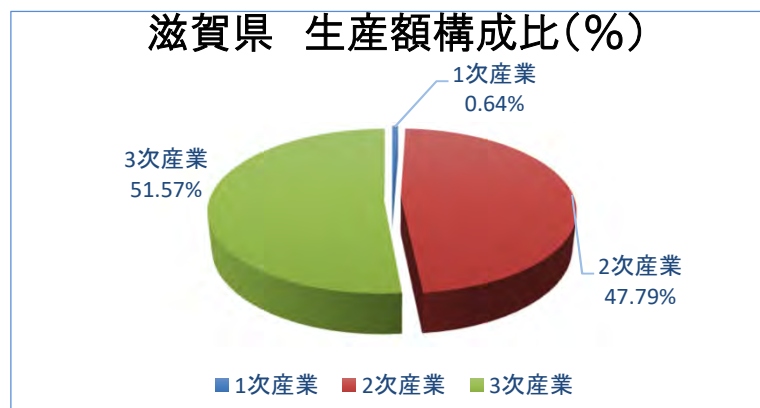
湖南市通過車両台数 (国道1号)



現状と課題② 脆弱な1次産業

課題2:生産力が乏しく偏重している1次産業

- ・市内生産額に対する1次産業のシェアは0.45%と低く、2次産業の割合が非常に高い。
- ・水稲偏重で付加価値の高い園芸作物の生産力が低く農家の所得向上が見込めない。
(産出額構成比でおおよそ稲作8:園芸2の割合)

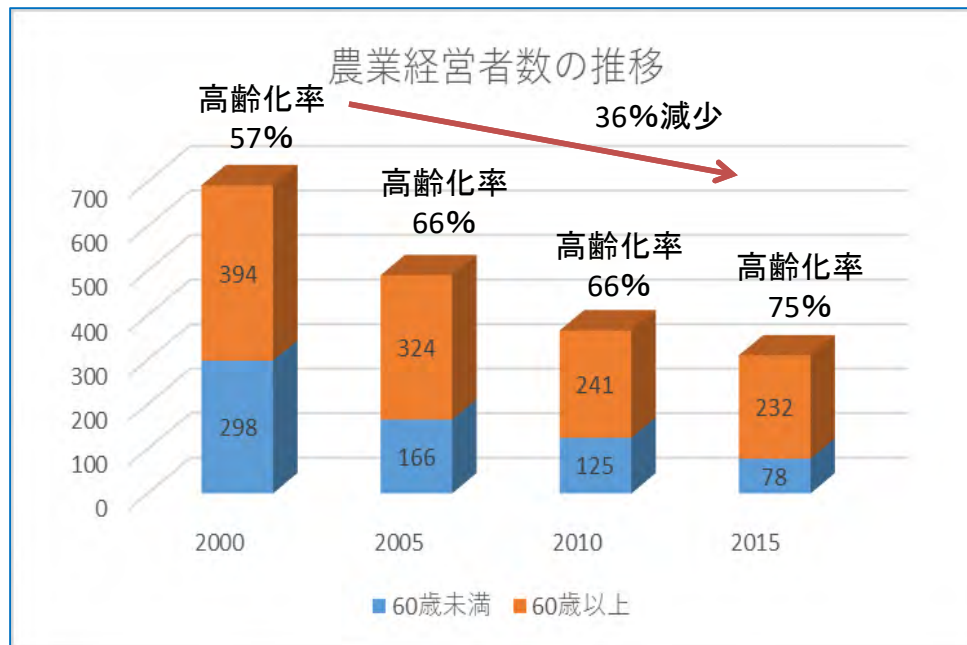


出典: H30市町村別農業産出額、H30生産農業所得統計

現状と課題③ 農業労働力の危機

課題3: 危機的状況下にある農業労働力

- ・農業経営者数に占める60歳以上の割合約75%。(過去5年で1.13倍)
- ・農業経営者数は年々減少し、10年間で36%減少。
- ・新たな担い手となる若手就農者の確保が困難。



新たな担い手確保が困難な要因

- ◇工業生産額が高く、立地の製造企業も多いため、工場などへ就業する人が多い。
- ◇通勤圏である京阪神地域へのアクセスが容易なことから、地元就労以外にも広域な就労環境がある。
- ◇農業経営は、新規就農するための初期投資が必要となることから、リスクが高い。
- ◇農産物の販売においては、販売価格が安価であることから、大量生産(産地化)を行うなど必要経費の軽減を行い利益率を確保しなければならないが困難である。

「みらい公園湖南」を活用して湖南省の抱える課題を克服

課題1 通過交通の街化

課題2 生産力が乏しく偏重している1次産業

課題3 危機的状況下にある農業労働力

👉課題を克服するために、「みらい公園湖南」が担う役割

➤市民産業交流促進施設「ここぴあ」

- ・市内の農産物の販売および農業従事者の所得向上（農業力の向上）
- ・伝統工芸品等の地域産品の販売およびPR（経済活性化）

➤魅力発信拠点施設「HAT」

- ・市内農産物を使用した飲食物の提供（特産農産物などの価値向上）
- ・展示スペースを活用した観光情報等の発信（立ち寄り客の増加）

➤体験農園

- ・新規農業従事者の育成（担い手・後継者育成）
- ・農業体験による集客力の向上（農と地域へのゲートウェイ）

『みらい公園湖南』の施設概要

国道1号

施設内容

| | |
|-------|---------|
| レストラン | 展示スペース |
| トイレ | 案内カウンター |
| 授乳室 | 駐車場 |

施設内容

| | |
|-----|------|
| 直売所 | 研修室1 |
| 調理室 | 研修室2 |
| トイレ | |

体験農園

魅力発信拠点施設(HAT)

市民産業交流促進施設(ここぴあ)

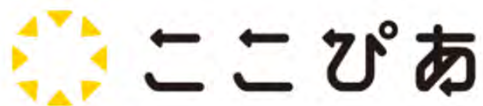
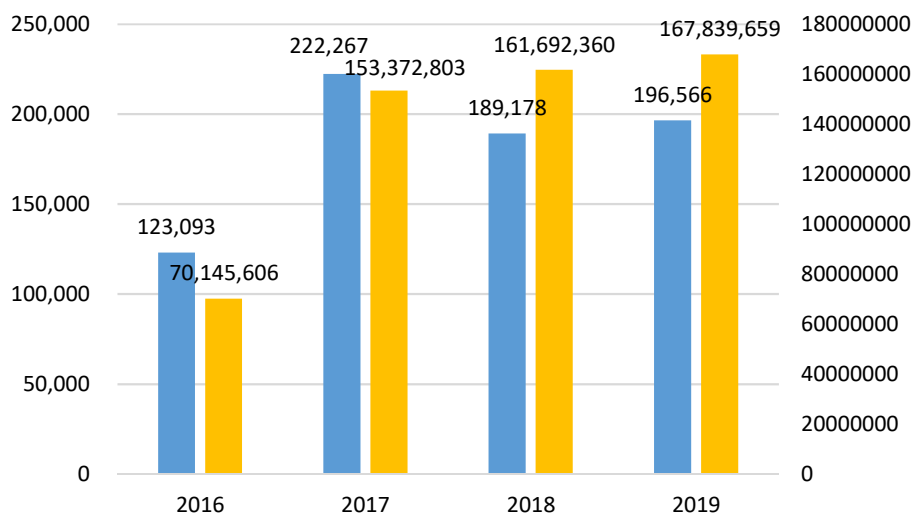
市民産業交流促進施設「ここぴあ」

■主な業務内容

農産物直売
地域産品等販売展示業務
研修室・調理室管理運営業務

指定管理者：甲賀農業協同組合

来場者数・売上高



「ここぴあ」施設紹介

お野菜
地元で採れた新鮮なお野菜をぜひご賞味ください。

催し物広場
この広場は、市民の皆様や企業・各種団体の方々に様々なイベントに活用できます。また、休憩所としても利用いただけます。

調理室
料理教室や調理実習、料理サークルなどにお使いいただけます。地域の農産物を販売している直売所で食材を購入して調理する料理教室や、隣の研修室とつなげて使う試食会や食育講座など、いろいろな使い方が可能です。

伝統工芸コーナー
「真鍮」と呼ばれる藍色をした鮮やかな色合いが特徴で、江戸時代から続く下田焼、紙の紐を用いて自由な発想で形を作る近江一問簾などの工芸品を取り揃えます。

研修室
スピーカー、プロジェクターやホワイトボードなども備えており、会議・イベント・展示会・セミナーなど、多様なニーズに利用できる貸し研修室です。約52㎡の研修室1と約74㎡の研修室2があり、部屋の真ん中にある間仕切りを取り払って利用することができます。隣の調理室とつなげて利用することも可能です。

お花
地元で栽培された色とりどりのお花をご用意しています。

お米
地元で採れたおいしいお米を販売いたします。店頭での精米したのお米がオススメ！

友好交流コーナー
湖南市と「友好交流協定」を締結している北海道比布町、鳥取県北栄町を紹介する陶板を設置しています。

湖南市と交流のある都市

市民産業交流促進施設「ここぴあ」



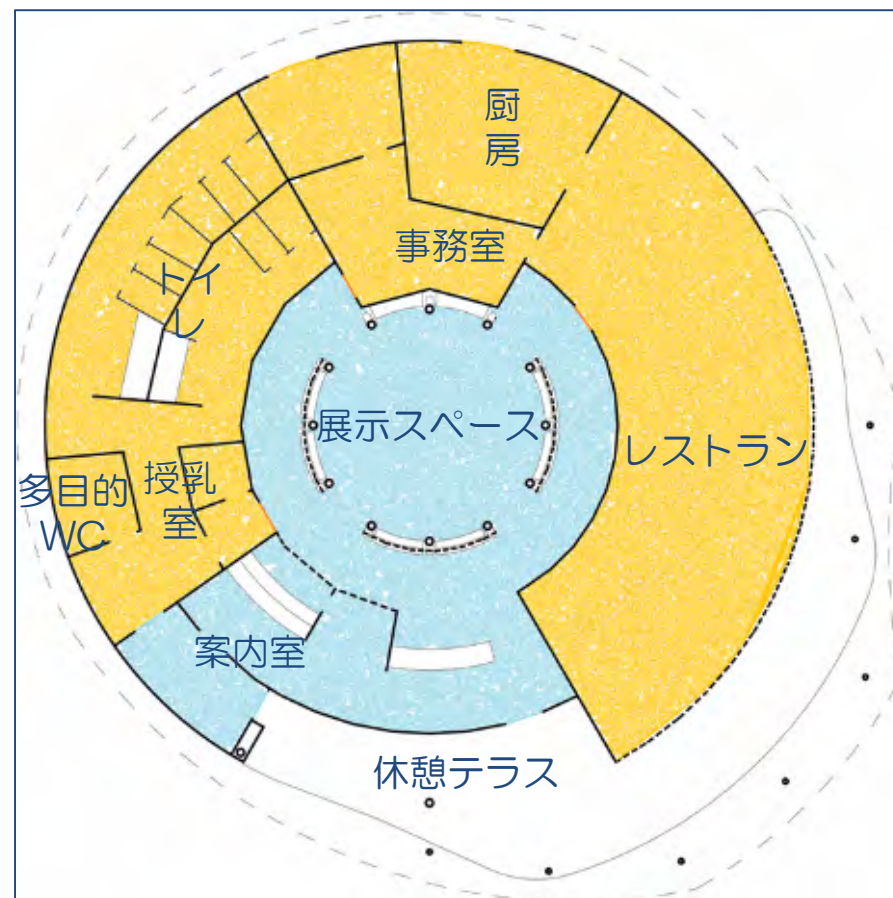
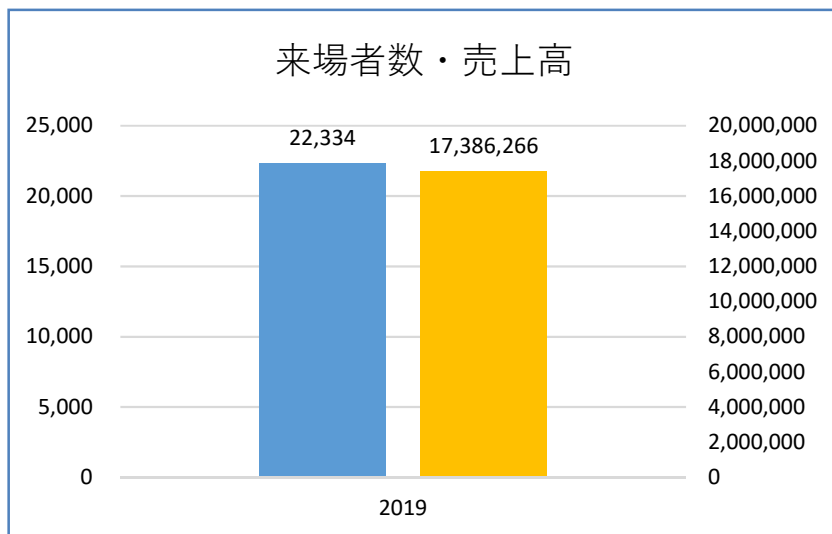
魅力発信拠点施設「HAT」

■主な業務内容

地産地消型レストラン管理運営業務

観光情報等提供業務

指定管理者：株式会社花芳



魅力発信拠点施設「HAT」



体験農園

■現在行っている事業

チャレンジ農園～新規農業者へ農業への関心を高める～

市民農業塾

事業主体：湖南省農業振興協議会

市民農業塾

＜交流者へ農業の魅力発信＞

- ・園芸作物の振興を目的に平成28年度から市民向け植え付け、収穫、販売等を通じた園芸作物栽培の魅力伝える取組み「市民農業塾」を開催。
- ・約300名の市民が修了、「ここぴあ」来場者向けの「グリーンツーリズム」有料のさつまいもとジャガイモの収穫体験イベントを実施し好評を得た。



研究農場での研修



座学での講習



圃場での講習



圃場で植付け



サツマイモ収穫体験



対面販売研修

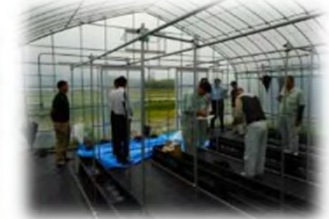
チャレンジ農園

＜新規就農者へ農業への関心を高める＞

- ・体験農園の経験者、ある程度の農業経験者を対象に将来の新規就農を目指した施設園芸野菜作りに挑戦する農園。市が施設整備を行い、圃場の耕作者である農業法人TIK農産、滋賀県農業農村振興事務所の普及員及び市内立地種苗メーカーの研究圃場の研究員の協力を得て平成30年度から開始する事業。
- ・4組の耕作者が挑戦を開始、内1組は体験農園で開催された「市民農業塾」の卒業生グループ。
- ・チャレンジ農園卒業後に、湖南省内遊休農地の斡旋、新規就農者向けの補助金事業など、市内での新規就農に向けたバックアップ継続予定。



市で設置した2棟のビニールハウスと1棟の資材機具倉庫



葉物野菜とトマトの栽培を予定

「みらい公園湖南」が抱える課題

課題1 低迷する経営からの脱却

課題2 市内産品の取扱割合の向上

課題3 一体となった施設運営

課題1 低迷する経営からの脱却

「ここぴあ」「HAT」ともに赤字経営となっており、健全な経営となるよう何らかの施策が必要。

課題2 市内産品の取扱割合の向上

運営主体である甲賀農業協同組合は湖南省のほか甲賀市も管轄内であるため、農業従事者の多い甲賀市産や市場で仕入れた農産物を取り扱う傾向が強く、市内産品の割合が低い。

課題3 一体となった施設運営

「ここぴあ」「HAT」ともに運営主体が別のため、相互協力が不足している。連携した共同イベントを行うなどの期待される運営の一体化が図れていない。